

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19310165

研究課題名（和文）

瀬戸内・中国山地の農林漁業地域に住まう女性・若者・高齢者の生活に関する経験的研究

研究課題名（英文）

An empirical study on lives of women, young people and elderly people in rural areas in Seto inland sea and Chugoku mountainous

研究代表者

藤井 和佐 (FUJII WASA)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：90324954

研究成果の概要（和文）：研究課題に関する聞き取り調査、質問紙調査等から、(1) 施策的には全体的公共性をはかろうとしているにもかかわらず、地域社会間において地域資源の有無を要因とする生活上の格差が認められた。(2) 女性・高齢者の生活や意識に注目すると、限界的状态を乗り越えようとする社会的連帯の可能性をみることができた。今後、住民の生活指向が構造的格差を埋める可能性をもつための条件を明らかにしていく必要がある。

研究成果の概要（英文）：We carried out hearing investigations and questionnaire surveys concerning our research project. What we found is as follows: (1) Although general publicness is intended by local policy, there is inequality of life between communities because of whether or not there exist local resources. (2) We paid attention to life and attitude of women and elderly people. Then we found possibility of social solidarity to overcome a marginal situation. We need to clarify conditions in which orientation of life of inhabitants has a possibility to reduce a structural inequality in the future.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2008年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
2009年度	2,700,000	810,000	3,510,000
年度			
年度			
総計	13,300,000	3,990,000	17,290,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：地域社会、中山間地域、島嶼地域、高齢者福祉、女性労働、地域振興、住民自治組織、生活構造

## 1. 研究開始当初の背景

近年、日本社会が格差社会になりつつある

と耳にするようになった。平成の大合併後には、社会的・空間的周縁におかれた地域社会が多くなってきている。「競争」や「効率」

を優先する時代状況にくわえて、高齢化・過疎化が著しく、とくに周縁におかれつつあるのが離島をはじめとする漁業地域と山間部の農林業地域である。そして限界集落が注目されることになる。

また、社会的周縁におかれていると考えられるのが、女性、若者、高齢者である。既研究成果からは、農・漁業地域における政治的意思決定の場に参画する女性の登用状況は、足踏み状態にあることが明らかとなっている。同時に当の女性たちの中心的価値指向は、公的リーダーとして意思決定に参画することにあるのではなく、地域社会の表舞台ではないところで、静かに「農」や「漁」と向き合うことにあったことが、本研究課題にいたる前研究課題で明らかとなっている。さらに男性中心で地域社会が動いてきた農林漁業地域においては、女性の公的活動にたいするジェンダー的問題状況は克服されていない。そして地域社会を担う次世代は就業先を求めて離村し、取り残された高齢者たちは福祉・医療に不安をかかえつつ生活を続けている。そのような若者や高齢者の問題に、ジェンダーの問題が交差しているのである。非正規雇用や老々介護は、女性の問題として立ち現れてくる。

他方で、近代的システムの枠にとらわれない、あるいは近代的価値観でははかることのできない暮らし方・生活構造があるのも農林漁業地域である。そこで、農林漁業地域のもつ周縁性の両極に目配りのできる社会学を中心に、文化人類学、経済地理学、行政学が連携することによって、農林漁業地域に住まう住民の生活と意識について地域社会構造との関連をとらえつつ明らかにし、現代日本におけるローカリティを再考し、来るべき地方社会の可能性を展望していく必要があると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究は、限界集落が数多くある中国地方の漁業地域（瀬戸内海沿い）および農林業地域（中国山地沿い）における女性・若者・高齢者に焦点をあてることによって、地域格差と社会的・経済的格差との多重構造のなかにおかれている地域住民の生活・意識のあり方を明らかにすることを目的とした。

具体的には、大きく2つの理論的・実証的課題を設定した。

(1) 理論的課題は、地域社会の異なる位相（政治・経済・文化・社会関係・生活）におけるジェンダー状況を明らかにすることである。

地方社会のジェンダー状況を問題とすると、女性の位置は政治的領域・経済的領域・文化的領域・社会関係領域の各領域において異なる段階を示す。くわえて生活領域という

領域設定をすることにより、女性がどのような位置を指向し、指向させられているのかが明らかとなろう。さらに、地域のリーダーシップ構造のなかに女性を位置づけない地域政治文化的要因を明らかにするとともに、参画を求めない女性の求める生活世界を明らかにする必要がある。それによって、社会的周縁のあり方を再考できるであろう。

(2) 実証的課題は、限界状況にある地域社会の構造的要因と女性・若者・高齢者の生活および意識構造との関連を明らかにすることである。

「がんばる」自立選択自治体を対象とした研究は、事例研究の域を出ていないうえに、とくに首長ら行政側からの見方や「男性社会」側から見たものがほとんどである。さらに、女性・若者・高齢者をとりまく問題を、離島地域や山間地域などの限界状況にある地域社会の構造的要因と結びつけて理論化した研究はいまだ多くない。そこで、政策的に「格差」が形成された状況とその結果としての社会構造のなかに、住民の生活と意識を位置づけることが必要である。それによって、少子・高齢化や過疎化などの地域社会をめぐる限界的状況について再考可能となる。

## 3. 研究の方法

既研究成果から、以下の諸点が明らかとなっている。(1) とくに女性を対象とする場合、地域社会において女性をとりまく既存秩序

（主に男性が担い手）の女性にたいする認知・感情・評価に注目する必要があること。

(2) 女性・若者・高齢者の具体的生活の態様と意識・価値観にせまる必要があること。また地域の歴史的背景、経済構造、文化の態様などを明らかにする必要があることから、フィールドワークによる質的データの収集と質問紙調査による量的データの収集の両方につとめる必要があること。(3) ①女性地域リーダーの価値指向が政治から経済、生活指向へとシフトしていつている。②安定した女性グループの活動の背景には行政支援があり、両者の協働がうまくいったときに成果をみることができる。③地域活性化を指向しながらも、後継者不足、自分たちメンバーの高齢化などが支障となり、活動に対する展望が描けないでいる。とくに、女性をめぐる状況を①を中心に、②および③も含め総合的にとらえる必要があることが、明らかとなっている。

そこで、フィールドワーク等の質的調査を主な手法とする研究者と、数量調査の経験が豊富な研究者とを配置するとともに、社会学を中心に文化人類学・経済地理学・行政学といった複数の学問分野を組み合わせることにより総合的研究を可能とした。

これらの研究組織を(a)地域別クラスターと、(b)対象別クラスターに配置し、同時に調査対象・調査方法の位相を設定することにより、調査対象地域とテーマ、対象、方法とが有機的に連関するようにした。

(a)地域別クラスターとしては、離島・漁業地域、中山間・農林業地域、比較対象地域の3つを設定した。女性・若者・高齢者をめぐる問題状況が、より先進的かつ顕在化している離島・漁業地域および中山間・農林業地域においては、とくに、平成の大合併政策により合併した岡山県高梁市、広島県呉市・庄原市、今回合併はしなかったが一部離島の自治体である岡山県笠岡市を中心とする。また兵庫県篠山市は、平成の大合併の先駆けとなった自治体であるが、周縁となる地域をかかえるなど、問題状況の先駆けをもとらえることができると考えた。さらに、都市社会(呉市)および他の地方(三重県・兵庫県・沖縄県)を比較対象地域として設定することで、地域社会変容のあり方や問題状況をより明確に考察することができる。

(b)対象別クラスターとしては、地域住民のなかでもより社会的周縁におかれやすいと考えられる女性、若者、高齢者にしぼり、生業・労働、福祉、グループ・組織活動に焦点をあてた。女性・若者・高齢者をめぐっては福祉の問題を無視するわけにはいかない。また、農林漁業地域ということで、生業と生活、労働と生活という観点は、人びとの日常生活をとらえるうえで核となる。さらに、とくに女性をめぐっては、グループや組織活動の状況を明らかにすることが欠かせない。なぜなら地域リーダーの状況がわかるとともに、NPOグループなどの新しいグループ活動は、地域を活性化に導く可能性をはらんでいるからである。

調査方法としては、資料収集、住民および地域リーダー、社会福祉協議会、行政担当者等へのインタビュー調査、広島県呉市女性・若者を中心とする専門職労働者(看護師、保育士、幼稚園教諭)の生活・労働実態、呉市と庄原市における高齢者の老後の展望と生活課題、岡山県笠岡市白石島住民の生活実態と意識、兵庫県篠山市自治会の活動に関するアンケート調査、人口構造・地域構造を中心とするGIS(地図情報システム)の構築があげられる。

これらの実施のために、中国・関西在住のメンバーを中心に、専門分野のみならず性別や世代バランスも考慮して、各クラスターにメンバーを配置した。また、数量調査や現地調査の指揮ができる専門社会調査士資格取得者を配置した。

#### 4. 研究成果

##### (1)研究の主な成果

本研究は、地域的周縁におかれた農林漁業地域において社会的周縁におかれた女性、そしてその女性を相対化するために、同じく周縁におかれていると考えられる若者や高齢者の生活行動や意識に注目することによって、地域社会における人びとの社会的周縁の実態にせまろうとしたものである。そしてその中心的方法論として、都市中心指向や地域の成長指向、伝統的慣習の否定といった近代的価値観や近代的システムからいったん切り離して地域社会や住民の意識をとらえるという価値自由の姿勢を想定した。この方法論をもって、数量調査、聞き取り・フィールドワーク等の手法を駆使し、その結果、以下のような成果を得ることができた。

①質問紙調査による成果(※すべて冊子体報告書を作成し、現地協力者・団体に還元するとともに、国立国会図書館、関連地域の公立図書館に寄贈した。)

a)「呉市に住む女性の生活・意識調査」によって、働き方、職業生活について20歳から65歳の女性1461人を抽出し郵送調査を行なった(有効回収率42.4%)。その結果、就業状況は家族構造に規定されること、「地域」が若い女性の生活にとって力になっていない状況が明らかとなった。

b)「白石島の明日を考えるための調査」によって、島嶼社会の生活実態と住民の意識について岡山県笠岡市白石島在住の20歳以上の全有権者631名を対象に郵送調査を行なった(有効回収率42.6%)。観光にたいする肯定的評価など、聞き取り調査とは異なる結果が出た。調査結果については、現地に報告会と意見交換会を開催した。住民の発言から自治会への関心が高いことがうかがえた。

c)「篠山の地域社会を考えるためのアンケート」によって、兵庫県篠山市内の全自治会長260名を対象に、地域社会の担い手の実態と可能性、地域社会の自立状況を明らかにするために自治会の活動状況、女性・若者・高齢者の自主的活動状況について郵送調査を行った(有効回収率84.6%)。その結果、自治会を主体とする活動と女性たちの自主的活動によって地域運営がなされているが、人口状況によってその内容に変容がせまられていることが明らかとなった。

d)「高齢期の暮らしと地域に関する調査」によって、広島県呉市および庄原市の65歳から79歳の高齢者各1000人を抽出し郵送調査を行った(有効回収率は呉市67.3%、庄原市80.1%)。その結果、福祉施策が高齢者にとって身近であるとは限らないこと、自立的生活の地域間格差が著しいことが明らかとなった。

##### ②聞き取り調査による成果

行政においては、急速に進む地域の限界状況にどのような施策をこうじるかについて、

模索している状況であった。また、モデル地区の設定は、核となるリーダーや若者のいる・いないによって左右され、自治体間格差、地域格差が広がるのではないかと推測された。

高梁市においては社会関係のあり方が生活満足感に影響していること。篠山市においては、若者（20歳代女性）の定住意識は、家族構造との関連において必ずしも積極的なものではないこと。三重県志摩市においては、海女漁への海士（男性）参入によって生業にたいする意識が変容していくことが明らかとなった。

### ③事例調査による成果

a) 兵庫県篠山市では、財政危機が住民に共同性の再構築を促していることが明らかとなった。

また、質問紙調査で募った聞き取り調査対象自治会長50名にインタビューを行った。その結果、自治会長の世代、移動歴と活動指向とに關係があること、地域共同性の維持に他出者が担い手となっていること、地域資源によって集落の将来展望が異なることが明らかとなった。

b) 岡山県高梁市では、そこに暮らす人びとが多様な社会集団・組織に所属したり、新たにつくり出すなか、濃密な社会関係が形成・維持されていること。それによって社会的存在としての人間が生き生きと暮らす様子をとらえることができた。また、T型集落点検による詳細な現状把握と住民の将来ビジョンから、住民は客観的な悪条件を乗り越える工夫をこらし、それを可能とする社会関係、制度などが形成・維持されていることや、外部との交流により地域的弱さを力に換えている点が明らかとなった。

c) 広島県庄原市・三次市では、合併により多様な地理的条件、産業、医療・福祉・社会福祉資源をもつ町村がひとつの行政単位になったことにより、平準化の圧力がはたらく一方で、自治体内格差への効果的な手当が十分に行われていない状況にあること。また、地域間格差の一方で、まちづくりのあり方によっては地域の個性化につながる事が明らかとなった。

### ④GIS分析による成果

a) 国勢調査データを使用し、広島県呉市における地域概況の把握を行なったともに、産業構造・就業構造の地域類型化を試みた。工業地域を中心に通勤距離が就業構造と地域との關係を特徴づけており、構造的な地域間格差が明らかとなった。

b) 国勢調査データを使用し、兵庫県篠山市における人口構造（人口推移、高齢化率、小学校児童数）について旧町別、学区別に分析した。その結果、地理的周縁地域において高齢化が著しく、流入者も少ないことが明らかとなった。

### ⑤その他

NP0法人代表者等を招聘し、講演会および意見交換会を行った。それによって島嶼部の現状に関する認識を共有することができた。

また、岡山大学で開催された地域社会学会大会において、大会テーマ「瀬戸内から見た地域『再生』の現実」に合わせ地域セッションを企画した。

### (2)研究成果の国内外における位置づけ・インパクト

格差社会については、多くの研究が都市社会を対象としてきた。しかし、本研究では地域格差にある離島や山間部を、そして経済的周縁にある農林漁業地域を、さらに社会的格差におかれた女性・若者・高齢者を対象としている。この対象の独自性から、今後の日本における地方社会の態様を先取りすることが可能となった。

また、フィールドワーク、聞き取り調査などの質的調査と質問紙調査という量的調査の両方法を駆使したこと、生活の局面を労働・生業、福祉、グループ・組織活動に焦点化したことによって、格差の実態把握のみならず、われわれが格差と呼んでいるものを再考していくことによって、格差とらえ直しの可能性を探ることができた。

さらに本研究は、地域社会をジェンダーの視点でとらえる試みでもあった。地域社会学の分野においてもジェンダー研究の分野においても、地域とジェンダーを結びつけた研究は少ない。この視点によって、地域社会の新たな局面を明らかにすることができたと同時に、地域社会学の分野においても、ジェンダー研究の分野においても理論的再考の機会となった。

### (3)今後の展望・課題

施策的には全体的公共性をはかるうとしていながらもかかわらず、合併自治体内における地域社会間および島嶼部では格差が認められた。また、女性・高齢者の生活や意識に注目した結果、数値によってははかれる限界状況を乗り越えようとする生活像が想定できた。

とはいうものの数量調査で注目されたのは数字のみならず、欄外や自由記述欄に書かれた複数の、高齢者、とくに女性の高齢者の叫びに近い声であった。

聞き取り調査では、女性、若者や高齢者の農・漁業への向きあい方とともに、地域との関わり合い方に世代的・ジェンダー的特徴がみられた。社会的連帯の可能性を示す地域がある一方で、生業・住民特性・価値観など多様なあり方に対応しきれない地域もあることが明らかとなったのである。女性や高齢者の生活指向が構造的格差を埋める可能性をもつための条件および若者が暮らしやすい地域生

活について今後明らかにしていく必要がある。

中山間地域にも島嶼部にも、広い意味での地域福祉が構築されつつあるかのようであるが、常にジェンダーの問題状況が交差している。さらに、地域の共同性を維持するためにその担い手（地域メンバー）をどのように考えるのかという問題がある。つまり、誰が・どこが、誰を・何を、どのように支えるのかについて明らかにしなければならない。農村・都市関係も変化し、農林水産業が変動期にある今、その福祉力・地域力のあり方を支える基盤となるのは何か/誰か。構造的要因、政策的要因を明らかにするとともに、他出者や二地点居住者、交流民などの定住者以外の「地域に関わる者」の態様と意識にも寄り添いつつ明らかにしていく必要がある。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 29 件)

- ① 杉本久未子、合併評価から見える中心周辺格差～広島県庄原市・呉市の高齢者意識調査から～、大阪人間科学大学 紀要、査読無、9 巻、2010、71-79
- ② 轟理恵子、農村ビジネスは集落を再生できるか～岡山・高梁市の事例から～、秋津元輝編・日本村落研究学会監修『年報 村落社会研究 特集 集落再生 農山村・離島の実情と対策』農山漁村文化協会、査読有、第 43 集、2009、121-161
- ③ 家中茂、日本のむらの「所有の本性」と弱者生活権、現代森林ボランティア、『増刊現代農業』、査読無、2009 年 8 月号、2009、213-219
- ④ 家中茂、多面的機能論の豊富化に向けて～里海という「場の創生」への注目～、『地域漁業研究』、査読無、49 巻 3 号、2009、111-124
- ⑤ 福田恵、山間地域にみる社会関係のダイナミズム～階層流動下で躍進する人物を手がかりとして～、『ソシオロジ』、査読有、162 号、2008、3-20
- ⑥ 中山ちなみ、高学歴女性の就業と生活満足感～性別役割分業の意識と実態～、『ノートルダム清心女子大学紀要 文化学編』、査読有、2008、32 巻 1 号、53-66
- ⑦ 田中里美、福祉政策に対する社会意識～高齢者の自立意識と介護サービス利用、広島国際学院大学『現代社会学』、査読無、2008、171-180
- ⑧ 家中茂、地域コミュニティの現在～沖縄における研究動向と竹富島の事例から～、日本地方自治学会編・発行『地方自治叢書 20 合意形成と地方自治』、査読無、2008、105-133

[学会発表] (計 20 件)

- ① 藤井和佐、村落的共同性の残存と地域維持～兵庫県篠山市の場合～、日本村落研究学会第 57 回大会、2009 年 11 月 1 日、京都府綾部市 ホテル広子園
- ② 杉本久未子、合併自治体における高齢者の生活～合併評価から見える中心周辺格差～、関西社会学会第 60 回大会、2009 年 5 月 23 日、京都大学
- ③ 田中里美、合併自治体における高齢者の生活～地域福祉に注目して～、関西社会学会第 60 回大会、2009 年 5 月 23 日、京都大学
- ④ 西村雄郎、瀬戸内海沿岸地域の地域構造変動と市町村合併～広島県呉市を中心として～、地域社会学会第 34 回大会、2009 年 5 月 10 日、岡山大学
- ⑤ 轟理恵子、Background and the factors promoting Women's Empowerment in Japanese Rural Society、XII IRSA (第 12 回世界農村社会学会議)、2008 年 7 月 11 日、Goyang, Korea

[図書] (計 20 件)

- ① 田中里美編 (分担執筆 杉本久未子、西村雄郎、田中里美)、科学研究費研究成果報告書、『広島県調査報告～庄原市・呉市～』(「瀬戸内・中国山地に住まう女性・若者・高齢者の生活に関する経験的研究」研究成果報告書第 6 輯)、2010、45 (1-16、17-30、31-45)
- ② 杉本久未子編 (分担執筆 藤井和佐、森裕亮、杉本久未子、山本素世、奥井亜紗子)、科学研究費研究成果報告書、『篠山市の地域力～暮らし・人・風土～』(同上報告書第 5 輯)、2010、71
- ③ 田中里美編著、科学研究費研究成果報告書、『平成 20 年度質問紙調査「高齢期の暮らしと地域に関する調査」庄原市の集計結果報告』(同上報告書第 4 輯)、2009、102
- ④ 田中里美編著、科学研究費研究成果報告書、『平成 20 年度質問紙調査「高齢期の暮らしと地域に関する調査」庄原市の集計結果報告』(同上報告書第 3 輯)、2009、100
- ⑤ 森裕亮編著、科学研究費研究成果報告書、『平成 20 年度質問紙調査「篠山の地域社会を考えるためのアンケート」集計結果報告』(同上報告書第 2 輯)、2009、71
- ⑥ 藤井和佐編著、科学研究費研究成果報告書、『平成 20 年度質問紙調査「白石島の明日を考えるための調査」集計結果報告』(同上報告書第 1 輯)、2009、192
- ⑦ 中道仁美編 (分担執筆 藤井和佐、木村都)、Women in Japanese Fishing Communities、農林統計出版、2009、224
- ⑧ 中道仁美編 (分担執筆 藤井和佐、木村都)、女性からみる日本の漁業と漁村、農林統計出版、2008、193

⑨西村雄郎編（分担執筆 西村雄郎、田中里美、中山ちなみ、佐藤洋子、佐々木さつみ）、広島現代社会科学研究会、『呉市民の生活と意識1』、2008、105

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

藤井 和佐 (FUJII WASA)  
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准教授  
研究者番号：90324954

### (2) 研究分担者

田中 里美 (TANAKA SATOMI)  
広島国際学院大学・現代社会部・准教授  
研究者番号：00300129  
杉本 久未子 (SUGIMOTO KUMIKO)  
大阪人間科学大学・人間科学部・教授  
研究者番号：60340882  
轟 理恵子 (TSURU RIEKO)  
吉備国際大学・社会学部・准教授  
研究者番号：20227474  
家中 茂 (YANAKA SHIGERU)  
鳥取大学・地域学部・准教授  
研究者番号：50341673  
森 裕亮 (MORI HIROAKI)  
北九州市立大学・法学部・准教授  
研究者番号：00300129  
木村 都 (KIMURA MIYAKO)  
奈良佐保短期大学・短期大学・相談役  
研究者番号：50225067  
平井 順 (HIRAI JUN)  
吉備国際大学・社会福祉学部・講師  
研究者番号：60435039  
中山 ちなみ (NAKAYAMA CHINAMI)  
ノートルダム清心女子大学・文学部・講師  
研究者番号：60351665

### (3) 連携研究者

西村 雄郎 (NISHIMURA TAKEO)  
広島大学・総合科学研究科・准教授  
研究者番号：50164588  
(H19：研究分担者)  
小林 孝行 (KOBAYASHI TAKAYUKI)  
岡山大学・社会文化科学研究科・教授  
研究者番号：70112274  
(H19：研究分担者)  
北村 光二 (KITAMURA KOJI)  
岡山大学・社会文化科学研究科・教授  
研究者番号：20161490  
(H19：研究分担者)  
北川 博史 (KITAGAWA HIROFUMI)  
岡山大学・社会文化科学研究科・准教授  
研究者番号：20270994  
(H19：研究分担者)

中谷 文美 (NAKATANI AYAMI)  
岡山大学・社会文化科学研究科・教授  
研究者番号：90288697  
(H19→H20：研究協力者)

### (4) 研究協力者

奥井 亜紗子 (OKUI ASAKO)  
立命館大学・日本学術振興会特別研究員  
研究者番号：50457032  
佐々木 衛 (SASAKI MAMORU)  
神戸大学・人文学研究科・教授  
研究者番号：60136398  
首藤 明和 (SHUTO TOSHIKAZU)  
兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授  
研究者番号：60346294  
福田 恵 (FUKUDA SATOSHI)  
東京農工大学・農学府・講師  
研究者番号：50454468  
山本 素世 (YAMAMOTO SOYO)  
奈良県立医科大学・非常勤講師  
(H19：研究分担者、H20：連携研究者)  
佐藤 洋子 (SATOU YOKO)  
広島大学・総合科学研究科・博士後期課程  
佐々木 さつみ (SASAKI SATSUMI)  
広島大学・総合科学研究科・博士後期課程  
中山 妙華 (NAKAYAMA TAEKA)  
広島大学・総合科学研究科・博士後期課程